

研修アンケート

主催者名	枚方市介護支援専門員連絡協議会
担当者氏名	佐藤 嘉枝

※研修期間： 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の研修についてお尋ねします。

	研修日	研修タイトル
第 1 回目：	H26. 11. 19	多職種連携のケアマネジメント実践・地域ケア会議で行う支援困難ケース支援

1. 今回のテーマを選ばれた理由をお聞かせください。

地域ケア会議への参加や地域包括ケアシステムの構築が言われている中で、当協議会の会員も未だ具体的なイメージがつかめていない者が多いのが現状です。特に地域ケア会議については、「担当者会議との違いがよくわからない」「ケースを提出することがどういう風に自分たちへの支援に結びつくのか、また地域ケアシステムに繋がっていくかがよく分からない」といった声が多く、地域ケア会議への参加や事例提出に良い印象を持っていない者が多かったため、今回のテーマを選ばせていただきました。

2. 研修を終えて、改善された内容はどのようなことですか？

地域ケア会議の意義を理解し、全体的に積極的に参加しようという意識が高まっていると感じています。また、それまで行政主導で行われるものと思って受身であった地域ケア会議に、自分も専門職であるという主体性を意識して参加することで、新しい目線で当該ケースを見ることができるようになったという意見も聞かれました。

3. 研修会を通して受講者の方々がどのように変化しましたか？

研修を受ける前と後で、受講者の変化やエピソードがあれば教えてください。

まず一番大きな反響は、「事例検討会や担当者会議との大きな違いがよく理解できた」ということでした。事前に講義をしていただいた後で具体的な事例を示していただけたことで、多職種で連携してケースを検討するという視点がいかに重要か、また個別ケース検討とは違う視点を持つ地域ケア会議の重要性を理解できた、という反応が一番多かったです。

その上で、以前は包括からの事例提出依頼に対して嫌な顔をするケアマネが大半で、包括職員も依頼するのが負担だった、という声がありましたが、その後は協力的とまではいかないものの、ケアマネ側にもその事例提出することの意味が理解できて、包括との連携もスムーズに行えるようになってきていると聞いております。何より、地域ケア会議の積み重ねが地域包括ケアシステムの一環となることを理解

できて、積極的に会議に参加しよう姿勢が出たことが一番の変化だと思っております。

4. 今後、ケアタウン総合研究所に依頼する研修及び高室成幸が提供する研修内容についてご希望、ご意見等あればお聞かせください。

ケアマネジャーに関しては、ひとりで開業している者も多くあるため、なかなかレベルや理解の統一は難しい現状があります。また、介護保険は改正や変更が多く、現場担当者は毎回の変更事項についていくのがやっと、の状態になっております。定期的に高室先生の研修を取り入れさせていただくことによって、振り返りや改正点の意図の確認となり、全体的な意識の底上げに大きな成果が出ていると感じております。

これからも、新しい改正事項はもちろん、どうしても慣れの起こりがちな日常業務の振り返り研修などもお願いしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

